

カリキュラム

機構施設名： 沖縄職業能力開発促進センター

実施機関名： パナソニックエレクトリックワークス創研(株)

B. 組織マネジメント	経営戦略	ビジネスとSDGs(持続可能な開発目標)との融合	主な受講者層 中堅層
--------------------	-------------	---------------------------------	----------------------

コースのねらい	世界中の企業がSDGsを経営の中に取り込もうと力を注いでおり、SDGsを経営に組み込むべく様々な取組みが進められている中でSDGsの必要性を理解し、自社のビジネスの成長につなげる知識を習得する。
----------------	---

講義内容	「基本項目」		「主な内容」	訓練時間 (H)
	1	SDGsの概要	(1)SDGsとは ・2030年を年限とする17の国際目標と169のターゲットを概観し、SDGsの位置づけを知る。 ・SDGs経営ガイドを通して、経営への活かし方を概観。 (2)SDGsとSociety 5.0、DXの関連性 ・2030年の年限後の姿である、Society 5.0がどのような世界であるかを知る。 ・SDGsは、DX(デジタルトランスフォーメーション)抜きでは考えられないことを知る。 ①個人&グループワーク: Society 5.0、つまり「多くのことが自動化された世界」での自社の存在価値を再考し、自社ビジネス成長のカギは何かを考える。	0.75
	2	SDGsの取組み	(1)SDGsの取組事例 ・日本の取組み事例を、企業の大小、製造業とその他の業界に分けて、各種資料から紹介。 ・各企業にどのようなメリットがあったのかを解説。 (2)SDGsに取組むことのメリット ②個人&グループワーク: 事例紹介から浮かび上がった「SDGsに取組むことのメリット」から、自社ビジネス成長のヒントを考える。	0.75
	3	開発目標の戦略	(1)SDGコンパスなどを活用した企業取組み ・SDGコンパスとは？ ・バリューチェーン(企業の各部門の価値)へのSDGsマッピングとは？ ・目標設定の方法 (2)SDGsマッピング ③個人&グループワーク: 自社のバリューチェーンへの「SDGsマッピング」から、自社ビジネスの成長と変革のために、SDGsを自社ビジネスにどのように取り入れると良いのかを考える。	1.0
演習		・①の演習: 質疑応答を含め、約45分。 ・②の演習: 質疑応答を含め、約45分。 ・③の演習: 質疑応答を含め、約2時間。		3.5
合計時間				6.0

カリキュラム作成のポイント

SDGsの詳細を知ることよりも、自社ビジネスとの関連性を知ることが重要と考え、「多くのことが自動化された世界」での自社のあり方、「SDGsのメリット」から考える自社のあり方、「バリューチェーン(企業の各部門の価値)」から考える自社のあり方、これらを考えることに多くの時間を割いている。